

活動を報告する佐藤プロジェクト



まちづくりGDXラボ

ネットワーク情報学部
公開シンポジウム開催 域学連携の活動報告

9月29日、フィンランドのトゥルク大学の学生ら22人が生田キャンパスを訪れ、ネットワーク情報学部の教員や学生と交流した。

来学したのは、情報シ

STEM科学を学ぶ学生団体TuKYDataのメンバー。日本の企業や大学を見学する研修旅行の一環で、キャンパスツアー、学生発表、剣道体験、懇親会に参加した。

学生発表はすべて英語で行われた。専大生は卒業研究、ラボやプロジェクトでの取り組みと成果を、トゥルク大学の学生は同大学の歴史、フィンランドと日本の国民性や働き方の違いなどをプレゼンした。

古川万莉菜さん（4年次）は竹をテーマとした卒業研究の内容を報告。「なじみのない題材をどう伝えるかを考慮した。英語でプレゼンするのは初めてで緊張したが、気分が

づかなかった視点の質問もあり、今後の研究に役立たい」と話した。

トゥルク大学3年次のモナ・サロさんは「専修大学の学生はとても優しく、2026年度から海外留学を必修としたC

できたし、剣道体験も楽しかった。充実した時間を過ごすことができた」と笑顔で振り返った。

ネットワーク情報学部は国際交流に力を入れており、2026年度から海外留学を必修としたC

コースを設置する。宮津和弘教授は「英語による交流で不安もあったが、しっかりと発表し、積極的にコミュニケーションを取っていた。今後の国際交流にも期待が持てる」と手応えを口にした。

10月25日（生田キャンパス）および11月29日（オンライン）、「企業人事担当者による模擬面接会」を開催します。

この模擬面接会では、実際に人事採用の経験を持つ担当者が、本番さながらの面接を行い、その場で直接フィードバックをしてくれます。こうした形式の講座は、大手の就職情報サイトなどでもあまり見られない、非常に貴重な機会です。

昨年度のアンケートでは、参加者の約98%が「大変満足」または「満足」と回答しており、高い評価を得ています。参加者

からは、「実践を2回、見学を2回できたのがとても良かった。他の人の面接を見る機会が少ないので、自分がどう見えているのかを知ることができたと思う」といった声も寄せられています。

グループ形式で行うこの模擬面接会では、自分の現在の実力を確認できるだけでなく、他の参加者の面接を客観的に観察することで、面接官の視点を理解することにもつながります。詳細は就職支援システム「Sine（支援行事情報・能力開発欄）」で確認してください。

面接力を高める絶好のチャンスです。ぜひご参加ください！

主なキャリア形成支援プログラム（後期）

プログラム名	日程	形式
適性検査：VRT職業レディネス・テスト(有料)	申込期間：～2/27(金) 視聴期間：～3/31(火)	動画配信
SPI準備講座(有料)	申込期間：～2/27(金) 視聴期間：～3/31(火)	動画配信
SPI模擬テスト	受検期間：～3/27(金)	オンライン
法人取引に見る銀行業務の基本 (三菱UFJ銀行中堅行員がキャリアと共に語る)	神 田：11/ 4(火)	対 面
企業人事担当者による模擬面接会	生 田：10/25(土) オンライン：11/29(土)	対 面 オンライン
3大学合同グループディスカッション実践講座 (専修大学・駒澤大学・昭和女子大学)	11/15(土)	対 面

※詳細はS-netで。事前申し込みが必要なプログラムもあります。

キャリア形成支援課では、上記以外にも低年次向けのキャリア形成支援プログラムを実施しております。詳細はin Campus、S-netをご確認ください。

経 営
岩田ゼミ

産学連携で国産生ハムPR イベントの熱気伝える動画を制作 ▶



国産生ハムを提供するゼミ生

ム協会が主催する「国産生ハムフェスティバル」の運営補助とPR動画の作成を岩田ゼミで行った。

今年で第9回となるフェスティバルは岩手県紫波町で開催され、全国から集まった20の生産者自らが、自慢の国産生ハムを原木から切り出して提供し、来場者はそれぞれのこだわりを聞きながら味や香り、食感の違いを地元のワインなどと合わせて楽しむことができるイベントである。

私たち岩田ゼミは、前日の会場準備から当日の受け付けや誘導などの補助を行うとともに、イベントの広報映像の撮影を行った。来年度の来場者数増加を目指し、国産生ハムフェスティバルの魅力が伝わるよう、会場の雰囲気や生産者の熱意が画面越しにも感じられるように意識しながら撮影を行った。来場者インタビューでは、国産生ハムの感想やイベントの楽しさについて語ってもらい、生の声を記録することができた。



会場の雰囲気や生産者の思いを撮影

また、主催者側の開催に込めた思いやその意義についても深掘りし、それらを効果的に伝えるため、数あるインタビューの中から取捨選択し、視聴者に伝わりやすいような動画構成を意識して編集した。

地域のテロワール※を生かした特産品である国産生ハムをPRするような熱量の高いイベントが毎年開催されることにより、国産生ハム協会と岩田ゼミに共通するテーマである「地方創生」につながることを動画を通して感じてもらいたいと思う。

（経営学部3年 増田丈一郎・加藤杏実）

※ 生産物の特性を作り出す自然環境やノウハウ